

2017年2月19日川越教会

豊かな実を結ぶ言葉

加藤 享

[聖書] マタイによる福音書13章3～9節、

イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。」

18～23節

だから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔かれたものとは、こういう人である。石だらけの所に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、自分には根がないので、しばらくは続いても、御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう人である。茨の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が御言葉を覆いふさいで、実らない人である。良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結ぶのである。」

[序] 神の支配とは

マタイ福音書13章には、「天の国」がどのようなものなのかについて、解りやすいたとえで主イエスが語られた7つの教えが集められています。マルコとルカの福音書では、「天の国」が「神の国」となっています。ユダヤ人は律法の第四戒「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない」という教えに従って生きていましたので、神を畏れ敬う心から、神という言葉を使わず、神を天という言葉で言い表しました。ですからユダヤ人を主な対象にして書かれたマタイ福音書は、神の国と言わずに天の国と表現したのです。

国は場所・領土というよりも、**支配**を現わします。ですから天の国・神の国とは、神が住んでおられる場所という意味ではなく、**神の支配**という意味です。では神は、この世界をどのようにご支配しておられるのでしょうか？ 今日**は聖書教育を離れて、第一番目の「種を播く人のたとえ」**から学ぶことにします。18節から説明が記されていますから、両方を合わせて読みますと、意味が分かってきます。

[1] 神の語りかけに応じる私たちの聞き方

種を御言葉と言っていますから、**神の言葉**です。また御国の言葉とも言われていますから、私たち一人ひとりの生活の中で、**神が生きて働いていることを現わす言葉**です。そして神が語るその言葉に対する、**私たちの応じ方が問題にされているのです**。

神の言葉には命があり、実りがあります。しかし神が語られても、それを悟らない人がいます。踏み固められた**道のような心**だからです。自分の人生は自分の信念でやっ
ていく。神の支配など認めないと、**自信のある人の心**でしょうか。それとも神の言葉を聞くと、生き方を変えなければならなくなるだろうと恐れを抱き、**聞くまいとする人の心**でしょうか。

一方、御言葉を聞くには聞くが、心の中にしっかり**根をはるような受け入れ方**をしなければ、何か困難に直面すると、こんなはずではなかったと**御言葉に聞き従うことを止めてしまう**。そして折角の御言葉を枯らしてしまう聞き方もあります。

また聞いて心に深く受け入れ、**御言葉に従おうとして**、根をはり、成長し始めるのですが、何を食べようか、着ようかと生活上の**思い煩いや、富の誘惑**が心に覆いかぶさってきて、御言葉によって成長してく人生が妨げられて、実を結ばずに終わってしまう人も出てきます。では**御言葉を聞いて悟り、百倍、六十倍、三十倍の実を結ぶとはどのような聞き方**なのでしょうか？

[2] 豊かな実を結ぶ聞き方

今日は私が札幌教会時代に身近に体験した**Kさん**の例をご紹介させていただきます。彼は高校の教員生活を長く送られました。60才で定年になりましたが、その後も教育の働きを続けて**70才**を迎えました。いよいよ**完全な引退生活**が始まります。

二番目のお嬢さんが東京から来られて、「**老後の生活を豊かに送れるようになってください**。教会の礼拝に行きましょう」と誘いました。Kさんは娘の提案を受け入れて、日

曜朝の礼拝に出席されました。3月末でした。娘さんは直ぐ東京に帰られましたが、Kさんはそれから**毎日曜**の礼拝を休まずに通い始め、8ヶ月後の11月に信仰を言い表して**バプテスマ**を受け、クリスチャンになりました。

「私は**罪多い人間**です。しばしば**酒に溺れ**、泥酔の果てに、妻や子どもたちを悲しませ、泣かせたことが幾度あったかわかりません。それが原因で妻は現在も病の床についております。どんな薬も療法も効果がなく、長い間苦しみ悩んでおります。しかも私自身4年前に**心筋梗塞**になり、時々発作がおき、その都度、死への恐怖におののき、悩まされてきました。

教会の礼拝に出席し始めて、罪深い私のような者をも**赦してください**る神を知りました。キリスト・イエスを信じ、祈るほかないと心に決めるようになりました。私のために十字架につき、**私の罪を赦して下さる身代わりの死**を遂げて下さったイエス・キリスト、三日後に復活された**神の子イエス・キリストを救い主として信じ**、神に召される日までお従いして生き抜こうと決心しました。」

Kさんは更に、信仰を確立させるためには、**祈りを身につけなければ**と強く思い「よし、祈祷会にも出席しよう」と決心しました。祈祷会は水曜日の夜です。心臓発作によく襲われ、歩くと息づかいも荒くなる体には、札幌の寒い冬の夜、凍てつく雪道をバスに乗って教会に通うのは大変危険です。私たちは「温かくなるまでお休みください」と幾度もお願いしましたが、吹雪でバスが止まらない限り、欠席しません。何か**死に場所**を求めているような真剣さでした。

すると神は**その信仰**にお応え下さいました。そして春を迎えるころには、Kさんをおかえって**元気な体**にして下さったのです。奥さんが夜中に汗をかきます。その洗濯を毎日なさり、よくお世話をなさいました。短気ですぐに腹をたてることもなくなり、穏やかになっていきました。やがて**奥さん**も礼拝に出席して皆の前で信仰告白をなさり、バプテスマを受けました。

教会学校の**教師、校長や教会役員**の奉仕も担うようになりました。家庭を開放して、奥さん共々に楽しい**家庭集会**をずっと続けて下さいました。そして**91才**の誕生日直前の2月1日に、静かに永眠されました。神は消えかかった 灯のようなKさんをお救い下さり、お嬢さんが願ったように**豊かな晩年を21年**も過ごさせて下さったのです。

私たちは、このような鮮やかな人生の転換に接しますと、Kさんがもっと早くにイエス・キリストの語りかけに**応答**していたら、奥さんも病気にかからずに済んだのに、またご本人も、21年どころかもっと**長い年月**を、恵み豊かに過ごすことが出来ただろうにと、つ

い思ってしまう。本当にそうですね。誰にもまして**神が**、そのことをどれほど切に願って居られたことでしょうか。でも K さんには、**語りかけ続けて下さる神の言葉**が、70 才までは**聞こえてこなかった**のです。聞いて応答しなければならないという**気持ちが起こらなかった**のです。残念なことでした。

[3] 神の言葉に応じて、生き方を変える

道と表現されている心——道は踏み固められています。御言葉が蒔かれても、**受け付けない心の状態**です。自分の考えでしょうか。世間の考えでしょうか。とにかくこうだと思込んでいる心には、**もっと良い呼びかけ**が、全く響かないのです。気の毒ですね。**独善**はいけません。自分の現在が最高最善なのでしょうか。より良いものを求め、受け入れていこう、**自分を変えていこうとする柔らかな心**を待たなければなりません。K さんの心も 70 才まではまさに**道**のようでした。

太陽の暑さに枯れてしまう岩地。困難に直面すると**信仰がくじけてしまう**のは、神の言葉が、心に深く根を下ろしていないからです。K さんは寒い冬になり始めた 11 月にバプテスマを受けました。信仰を確立させるためには、**祈りを身につけなければ**と、祈祷会にも出席しようと決心しました。心筋梗塞を患った 老いの体には、札幌の冬の夜道は大変危険です。でも彼は**神さまに賭けた**のです。するとその決心が、**心の中の岩**を打ち砕きました。これが**御言葉を深く受けとる聞き方**なのではないでしょうか。

信仰の成長を覆って窒息させていく**茨**とは、世の**思い煩い**や、**富の誘惑**や様々な**欲望**だとあります。K さんは御言葉に聞き従うことを**第一にする**と決心しました。夜の祈祷会出席を恐れませんでした。すると医者代のかからない体になりました。酒代も不要になりました。奥さんに申し訳なかったと、心からお世話するようになりました。奥さんも急に元気回復したわけではありませんが、やがて礼拝に出席するようになり、**バプテスマを受けました**。そして家庭集會に集まる教会員を喜んで迎えるようになりました。家の中が明るく楽しくなり、**思い煩うこと**が一つ二つと消えていったのです。**茨が消えていった**のです。

良い土地とは？ よく耕かされているとも、土がよく肥えているとも書かれていません。ただ、**御言葉を聞いて受け入れる人たち**と言われていただけです。K さんは、説教で説き明かされる**聖書の言葉**を、神さまの語りかけとして心を開いて聞き、御言葉に**応答**して、自分の生き方を変えていきました。これこそまさしく、**百倍の実を結ぶ聞き方**をした人ではないでしょうか。

[結] 聖書を規範とする信仰

ヘブライ人への手紙の冒頭に、「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが(旧約聖書の時代をさします)、この終わりの時代には、御子(イエス・キリスト)によってわたしたちに語られました。」「御子は——、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられます」と記されています。即ちイエス・キリストにおいて語られている神の言葉こそ、神の本質の完全な現れであり、その御言葉によって支えられていると信じて、聞き従っていく信仰——これが私たちの信仰です。

イエス・キリストは聖書にのみ記されていますから、私たちは**聖書を信仰の唯一の規範**として大切にします。そして聖書を読むことで、神の語りかけに聞き従って、生きていくのです。今日は**日曜日**、このように教会に集って、**分級**で聖書を学び合い、**礼拝**で聖書を読み、聖書の説き明かし——**説教**を聞いていただいています。日曜だけの事にしないで、努めて**毎日聖書を読み**、神の語りかけに聞き従いつつ、生きて参りましょう。

私たちは神さまの語りかけになかなか聞き従えません。しかしイエス・キリストが「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです」と**執り成し**続けてくださっているので、神さまは**時の到来**を忍耐強く待って下さっています。Kさんに対しては、70才まで待って下さいました。そして百倍の実を結ぶ21年の**晩年の恵み**をお与え下さいました。またKさんを用いて、札幌教会という**教会家族**を豊かな恵みで祝福して下さいました。

川越教会も、小さな子供たちから老年に至るまで、全年齢層が集まって共に御言葉を学び、信じ、**御言葉の実を豊かに結ぶ教会**になって参りましょう。

祈ります:神さま、今日も命の実を豊かに結ぶ救い主イエス・キリストの御言葉を学ぶことが出来て感謝します。今日はあなたが、K兄弟に70才から21年間にわたって、豊かな恵みをお与え下さった証をさせていただきました。感謝します。札幌教会を祝福してください。全ての教会の上に、あなたの霊の祝福を豊かにお注ぎください。私たちが御言葉に従って生きる一週間の歩みを導いて下さい。殺し合う戦いを止めさせてください。平和をお与えください。救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。
アーメン

